

平成 29 年度（通算第 15 回）

国際交流推進協議会

平成 29 年 9 月 13 日（水）  
アルカディア市ケ谷（私学会館 3 F 「富士の間」

Ⅲ.協議

講演

（1）『留学生政策をめぐる現状と取組』

講師

文部科学省高等教育局学生・留学生課課長  
井上 諭一 氏

ただいまご紹介いただきました井上でございます。本日はこのような場をいただきまして大変ありがとうございます。今日は、国際交流、留学生交流の現状というような項目でお話をしようということでやってまいりましたが、こういったことは、これまで文部科学省がいろいろなところで話していますし、ホームページを見ればわかるのです。そのような内容をあらためて国際交流を担っていらっしゃる皆さんにお話しするのもどうかと思ひまして、今日は担当の行政官として私が日頃考えている問題意識や現状認識、こういったところをお話しさせていただければと思います。

時代は変わるということで、1955年くらいから最近まで、データを並べてみました。

人口はもちろん増えています。昭和30年に比べたら今はすごく増えています。出生率は皆さんご案内のとおりずっと減ってきておひまして、また平均寿命ももはや80歳を超えて、最近始まった政府の会議では「人生100年時代」ということも言っております。そこに参加しているリンダ・グラットンさんによれば、今の20歳ぐらいの方は107歳まで生きる可能性が50%以上ということなので、この中にもいらっしゃるかもしれせんけれども、あと80年ぐらいは働かないと老後が大変だと、そんな状況でございます。ライフスタイルも変わってきています。専業主婦と共働きの数は、昭和50年と現在を比べると逆転しています。共働き世帯が多くなっている。そして労働も、明らかに第3次産業中心になっており、いまや日本の国を支えているのはサービス業、第3次産業です。

学生も、大学が人材育成の要でございますけれども、1955年は高等教育進学率は10%しかありませんでした。現在は専門学校まで入れますと8割ですので、高等教育は社会に出るにあたって皆が通る道になっており、社会で活躍するためには、大学での人材育成が益々重要になっているということでもあります。

そして、1980年ぐらいから現在までは第3次産業革命、いわゆるIT革命の時代です。そして今や第4次産業革命、Society 5.0の世界になるということが言われております。このような中、日本は残念ながら、特にこの20年は失われた20年と言われておりますが、はっきり言って第3次産業革命にまったく乗り遅れてしまいました。政府においても、IT人材育成だ、グローバル化だと、多くの取組を実施してはいますが、そのところで全く立て直しができていない中、世界は第4次産業革命に突入してきているわけですね。これは大変だなと思ひており、私の問題意識の源はここにあります。

そして私は、第3次産業革命に完全に日本が乗り遅れた一つの大きな要因は、国際化、グローバル化ができなかったことだと思ひています。まさに国際交流なのです。

そこで現状認識ですが、第3次産業革命を先導できなかった日本は、失われた20年で国際競争力もGDPも低下してしまいました。念のためご紹介しますと、世界競争力ランキング、IMDというスイスの機関が発表しているランキングで、1993年は日本が1位ですが、今年のデータでは27位。名目GDPについて1994年と2014年を比べると、成長どころかマイナス2パーセントです。この間、実は主要先進国はIT革命にうまく乗って、GDPを軒並み伸ばしているのです。

アメリカのGDPはどのくらい伸びているか。アメリカもリーマンショックがあったから、まあ3割ぐらい伸びているのかなとか、いろいろ皆さん思ひかもしれませんが。答は138%増。倍以上なのです。日本はこの間いったい何をやっていたのかということですね。

このような状況において、80%の方が高等教育に進学する。そこでの学びが非常に重

要になってきます。中でも、国際交流がものすごく大事であり、今日お集まりの皆さんには、我々も自分の持ち場で奮闘しますので、ぜひ尽力していただいて、活発化してもらいたいと思っています。

日本がグローバル化に乗り遅れたことから、どのような影響が出ているのか。いろいろあるのですが、一つの指標として、論文データがあります。これで全てが言えるわけではありませんが、10年前と比べて、日本の論文生産量は減っています。質についても、トップ10%論文、トップ1%論文とも、順位はそれぞれ、4位から6位、4位から7位と下がっています。

次に分野別の論文データを見ますと、日本はものづくりの国だ、エンジニアリングは強い、とのイメージがありますが、工学分野のトップ10%論文は10年前の4位から14位になっています。とにかく日本は論文の生産性において、全ての分野で以上のような状況になっています。

一つの背景として、論文に関する国際共著の状況が挙げられます。この10年の間に日本は国際共著における他国との関係が増えてはいるのですが、他の国々における国際共著の伸びが著しく、世界的に見ると日本は国際コミュニティの中で浮いてきてしまっている。これは論文の話なのですけれども、実は産業分野でも、ビジネスの世界でも、国際貢献の現場でも、同様のことがいろいろなところで起きてきているのです。

一方世界は、国際化が進展している状況を大学生もよくわかっています。大学も頑張って国際交流を推進しています。OECDのデータによりますと、留学生の数は世界的にずっと増えているのです。例えば失われた20年間である1990年と2011年を比べると3倍以上になっています。世界ではどんどん留学生交流が増えているのです。ではこの20年間、日本人の留学生数はどうなったのか。皆さんご存じのとおり、減っています。先進国で留学生の数が減っているのは日本だけです。世界は3倍とか4倍になっているのに、日本は減っている。グローバル化の中で、そこに失敗した日本は、案の定、第3次産業革命で乗り遅れています。ますますグローバル化が活発になって第4次産業革命に向かおうとしている中で、このままでは本当にまずい。これが私の危機感でありまして、今日はぜひお伝えしたかった。

次に、諸外国における人材獲得競争ということですが、これは皆さんご存じですね。エラスムス計画など、各国も優秀な学生の囲い込みに懸命です。日本から出て行く学生についての危機感は、既に述べましたが、来日する学生は、幸いに増えています。特徴的なのは、日本語教育機関に来る方が増えていて、これがいまや全体の4分の1ぐらいになっています。しかしながら、各国の学生に占める留学生の割合を見てみると、OECD諸国の中で日本は相変わらず低い状況でありまだまだ頑張らなければいけないという状況だと思えます。各大学、また地域によって、それぞれ強いところ弱いところなど特徴があると思えます。ぜひ、自分の大学で強いところをうまく伸ばし、またPRしていただいて、外国から非常に優秀な留学生を受け入れることを心がけていただければと思います。

政府では留学生の受け入れも送り出しも倍増する目標を掲げていますが、最近の閣議決定では、特に外国人留学生の定着について強調しており、文部科学省でも留学生就職促進プログラムを始めました。外国人留学生にアンケートをすると、6割ぐらいの方が日本で就職したいとおっしゃっていますが、実際に就職できている方は3割なのです。政府とし

では、これを5割まで引き上げる目標を掲げており、文部科学省の新しいプログラムの活用も含め、各大学におかれては取組を進めていただきたいと思っております。

留学生への支援策としては、引き続き奨学金などを手当てしております。特に、留学生受入れ促進プログラムは、いい学生を採用してもらう趣旨で、渡日前に採用する割合を増やしております。

また、現地での広報やネットワーク作りを行うために、重要国に留学コーディネーターを配置しています。今のところ、ミャンマー、ザンビア、インド、ブラジルに配置していますが、明らかに配置国からの留学生数が増えている状況であり、これからも配置地域を増やしていこうと思っております。基本的に、コーディネーターの配置は現地に強い大学に担っていただいておりますけれども、オールジャパンの窓口という立場で拠点を置いていただいておりますので、これら拠点もぜひ活用いただけたらと思っております。

さて、日本人留学生の数についてですが、増えていますが、これは大学で把握している数で、基本的には短期です。1年以上のコースワークを行う学生の人数は、あまり増えていません。コースワークでないと効果が低いというご意見もありますが、まずは短期留学で海外経験を積むというのは、学生にとって学びの効果もありますし、さらにそのあと本格的に留学したり社会人として海外に出ていくといった気持ちを醸成する上でも非常に効果があると思っております。短期であっても、工夫により大きな効果が出ている事例もありますので、こういったことも研究しつつ、留学の促進に努めてまいりたいと思っております。

そして、民間からの寄付金で「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」を実施しています。大学の事務局の皆さんの働きかけもあり、多くの応募をいただいておりますが、このプログラムの大きな特徴は、いわゆる学業成績については問わない点です。英語力も問いません。本人のやる気を重視して審査していますので、本人の真剣度が高く、とにかく海外で頑張りたいという学生がいたら、この「トビタテ！」は非常に有意義ですので、ぜひご紹介いただければと思います。

さらに、いざ国際交流をしようとする、単位互換をどうするか、協定をどうするか、奨学金の支給をどうするかなど、いろいろと大変だと思うのですが、UMAPのプログラムは、私はお勧めだと思っております。

というのは、責任を持った事務局があり、特に今は東洋大学が事務局ですので、事務局にアクセスしやすい。そして、このプログラムに参加すれば個別の大学とMOUを結ばなくても、UMAP参加校と学生交流ができます。だから、そこの手間も省ける。そして、その枠組に入ればJASSOの奨学金も利用できます。国際交流は非常に手間がかかるのですけれども、うちの大学はそこをやる人がなかなかいないという場合でも、UMAPをうまく使っていただきますと効率よく国際交流ができる。しかもショートタームのプログラムをメインでやっておりますので、皆様や学生のニーズにも合っていると思い、最後に言及させていただきました。

以上で私の話を終わらせていただきます。どうぞご静聴ありがとうございました。

(以上)